



みんなで考えてみよう！
地域の子どもは地域で育てる

エピソード

集団下校中に、通学路でふざけて追っかけっこをしていた子どもの一人が車に接触するという事故がありました。幸い子どもには怪我はありませんでした。地区では住民による『子ども見守り隊』を組織し、当番制で子どもたちの登下校時に活動していますが、事故がおこり、保護者や関係者に衝撃が広がっています。

グループ
ワーク



1 地区の、親子交通安全教室で、見守り隊員の2人に話をしてもらうことにしました。あなたなら、下の5人のうち誰を選びますか？
2人選んで、その理由も書きましょう。

選んだ候補：（ ）さんと（ ）さん
選んだ理由：

— 子ども見守り隊の皆さん —



Aさん：女性（商店従業員。30代。母親クラブ員。小学生の子ども2人）

母親クラブの割当てで、この間初めて見守り隊に参加しました。それまでは、見守り隊が何をしているのかも知らなかったんです。正直、地域のことはあまりかわっていません。ママ友たちとは心配だねと話していたし、他人事にも思えないけど、仕事が忙しいのです。



Bさん：男性（会社員。40代。町内会役員。小学生、中学生の子ども）

小学校PTAで“親父の会”を作り夜間パトロールを始めました。事故にあった子は、スポ少のサッカーで面倒を見ている子なので驚いています。まわりと声を掛け合って何か動きたいとは思いますが、なにしろ今はバリバリ働いているし、会社も大変なので。



Cさん：男性（自営業者 酒店店主。50代。町内会役員。子どもは成人している）

仕事から、車であちこち配達に回るので子ども110番の車にして巡回したりして、特に危険箇所などもよくわかっていたつもりでしたが、まさかあそこでは…。うちの子らも、昔は皆さんにお世話になりましたし、私であれば精一杯のお手伝いをさせていただきます。



Dさん：女性（主婦。60代。婦人会員。小学生の孫）

うちは親たちが共働きなので、私が一人で孫を見ていますが、小学生も中・高学年になるとなかなか言うことを聞かなくて心配しています。穏やかに話すのは得意ですが、私のような年寄りが、若い親御さんたちの前でお話をしてもよいのでしょうか。



Eさん：男性（農業。70代。老人クラブ役員。中学生、高校生の孫）

もともと警察官を長い間やってきたので、防犯・交通安全の話はできますよ。この間も小学校の交通安全教室で話をしてきました。でかい事故が起きんうちに、親たちを含めて地区の大人が、もっと子どもたちに関心を持って、少し言いにくいことも伝えていきたいです。

2 数人で話し合っ、グループとしての講師2人を選び、発表しましょう。

正解があるわけではありません。ざっくばらんに話し合うプロセスを大切にしましょう！